

1. 気象経過

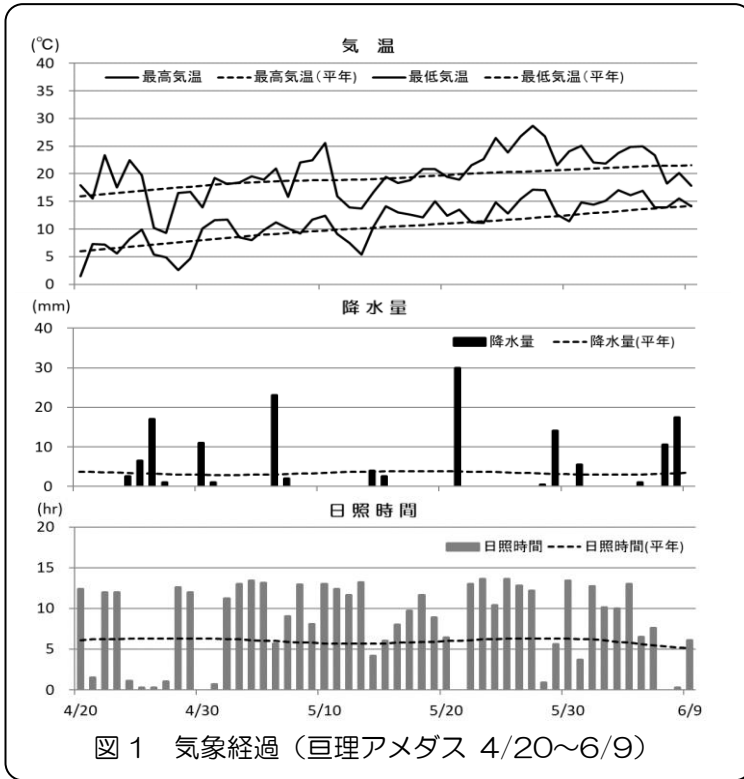


表1 旬別気象データ (巨理アメダス)

	平均気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(時間)		
	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比	
4月 下旬	11.2	-0.7	38.0	117%	52.8	81%	
5月 月上旬	15.3	1.5	26.0	95%	100.1	167%	
	中旬	14.4	-0.1	6.5	15%	92.0	169%
	下旬	18.8	3.0	50.0	132%	99.2	143%

- 育苗期間中は、気温は平年並、降水量は少なく、日照時間は多く推移しました。
- 田植後は、気温は高い傾向、日照時間は多く推移し、定期的にまとまった降雨がありました。

2. 生育概況

(1) 移植栽培

品種	調査地点	田植月日 (前年差)	栽植密度 (株/m ²)		6月1日調査(5/31)			6月10日調査			
					草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (GM値)
1 ひとめぼれ	名取市 愛島	5月18日 (3日早)	18.1	本年値	27.0	76	5.2	30.5	134	7.0	30.0
				平年比・差	107%	86%	0.1	101%	72%	0.3	-6.3
				前年比・差	148%	83%	0.4	104%	72%	0.5	-8.2
2 ひとめぼれ	岩沼市 押分	5月15日 (7日遅)	17.2	本年値	23.0	86	5.2	25.1	165	6.8	32.0
				平年比・差	—	—	—	—	—	—	—
				前年比・差	97%	98%	-0.9	80%	72%	-0.8	-9.0
3 ひとめぼれ	巨理町 逢隈	5月6日 (2日遅)	18.6	本年値	24.7	117	5.6	28.9	313	7.6	45.2
				平年比・差	—	—	—	—	—	—	—
				前年比・差	81%	116%	0.3	86%	109%	0.4	-1.5
4 ひとめぼれ	山元町 坂元	5月18日 (4日早)	16.5	本年値	22.1	63	4.9	26.4	154	6.5	36.7
				平年比・差	114%	78%	0.4	103%	124%	0.6	0.0
				前年比・差	109%	104%	0.1	93%	106%	-0.1	-8.7
5 だて正夢	巨理町 逢隈	5月11日 (7日遅)	18.7	本年値	27.3	94	5.4	38.3	202	7.3	41.2
				平年比・差	—	—	—	—	—	—	—
				前年比・差	88%	86%	-0.1	107%	77%	0.1	-6.0

*平年値は過去5か年(H26~30年)の平均値を使用。調査ほ場が変わっている場合は、平年値を示していません。

- 田植時期が早いほ場では、茎数の増加が早い傾向です。
- いずれのほ場でも葉数が6.5~7.6枚となり、順調に生育しています。

(2) 直播栽培

品種	調査地点	播種月日	播種様式	播種量 (kg/10a)	条間 (cm)	苗立数 (本/m ²)	6月10日調査			
							草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (GM値)
1 ひとめぼれ	岩沼市 押分	4月9日	乾田直播 条播	6.0	20	148.3	25.4	345	6.5	38.9
2 ササニシキ	名取市 杉ヶ袋	4月23日	乾田直播 条播	6.0	30	127.5	22.1	208	4.7	29.7
3 げんきまる	山元町 浅生原	4月16日	乾田直播 条播	6.5	30	164.2	20.8	184	6.1	—

- 播種が早いほ場では葉数が 6.5 枚となり、5 月中旬移植ほ場と同程度となっています。
- いずれのほ場でも、直播栽培で必要な苗立数 (150 本/m²) を確保しています。

直播のツボ①「湛水直播(鉄コーティング)」と「乾田直播」の特徴

	鉄コーティング湛水直播	乾田直播
必要な機材 (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> • 播種専用機や汎用田植機用の播種ユニット • 空中散布の場合は無人ヘリ等 	<ul style="list-style-type: none"> • ドリルシーダー等の播種機と装着、牽引用のトラクター • ほ場鎮圧用のローラー
播種時期	• 5月上旬～5月中旬	• 4月上旬～4月中旬
除草体系の例	<ul style="list-style-type: none"> • 耕起後～代かき前 ：非選択性茎葉処理剤 ↓ • 播種時：初中期一発剤 ↓ • 後発雑草に：選択性茎葉処理剤 	<ul style="list-style-type: none"> • 播種の前か後：非選択性茎葉処理剤 または播種後：土壌処理剤 ↓ • 水稻苗立後、湛水前：選択性茎葉処理剤 ↓ • ほ場湛水後：初中期一発剤 ↓ • 後発雑草に：選択性茎葉処理剤

○ツボ：乾田直播の除草回数は多くなりがちだが、移植との作業競合は回避できる

3. 今後の管理

(1) 水管理

- 目標茎数 (ひとめぼれ：410～460 本/m²) の確保に向けて、水深を 2～3cm 程度の浅水管理とし、水温・地温の上昇を図り、茎数の確保に努めましょう。
- 目標茎数を確保したほ場では、過剰分げつ抑制、倒伏抑制、根の健全化のため、中干しを行いましょう。
- 稲わらをすき込んだほ場や排水不良田では、気温の上昇とともに有機物の分解が盛んになり、土壌還元が進んで硫化水素等のガスが発生しやすくなります。ガス抜きおよび酸素供給のために、溝切りや一時的な落水、飽水管理を行い、根の活力低下を防ぎましょう。

中干しについて

- 中干しは、「田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく」程度とします。
- 中干しの期間は、7～10日間程度とし、遅くとも幼穂形成期前までに終了しましょう。
(ひとめぼれの幼穂形成期：平年7月6～10日頃)
- 終了後の入水は、根を傷めないよう「走り水」から始めて、ゆっくり行います。

表2 中干し開始時の株当たり茎数の目安
(目標茎数 450 本/㎡の場合)

田植時の設定株数 (株/坪)	1㎡当たり株数 (株/㎡)	中干し開始時の 1株当たり茎数の目安
50	15.1	30本
60	18.1	25本
70	21.2	21本

◆中干し開始時の1株当たり茎数の求め方

目標茎数を 450 本/㎡ とした場合、

$$\begin{aligned} &450 \text{ 本/㎡} \div 1 \text{ ㎡当たり株数} \\ &= \text{中干し開始時の1株当たり茎数} \end{aligned}$$

*なお、1㎡当たり株数は、

$$\begin{aligned} &\text{田植え時の設定株数} \div 3.3 \\ &= 1 \text{ ㎡当たり株数} \end{aligned}$$

で求められます。

(2) 雑草防除

- 田植以降、気温が平年より高いため、雑草の生育が平年より早まっています。
- 初中期一発除草剤を施用したほ場でも、残草が目立つ場合は、雑草の種類や葉齢、稲の葉齢をよく確認し、中・後期剤で追加防除を行きましょう。
- 水田内に残ったノビエ・イヌホタルイ等の雑草は、稲の出穂前にカメムシ類をほ場に呼び寄せ、斑点米被害の原因となります。
- 特にイヌホタルイは、アカスジカスミカメが寄生・産卵し、ほ場内のカメムシの発生密度が高まるため、防除を徹底しましょう。
- カメムシ類防除のために、エサとなる水田周辺の牧草地・雑草地、畦畔の草刈りは、7月中旬頃までに終わらせましょう。

(3) いもち病防除

- 残苗(補植用苗)は、本田でのいもち病の発生源になります。まだ残っているほ場では、速やかに処分しましょう。
- 宮城県病害虫防除所のデータ(6月4日現在)では、6月1日にいもち病の準感染好適条件が県内広域で出現しています。こまめにほ場を観察し、いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。
- 直播栽培など箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、各種水面施用剤を防除適期に散布しましょう。予防防除を行った場合でも、発病が見られた時には直ちに茎葉処理剤で防除しましょう。

第2回 『だて正夢』の栽培管理

- ◆ 「だて正夢」としての品質基準をクリアするためには、丁寧な栽培管理が必要です。栽培管理のポイントを再度確認し、高品質・良食味を目指しましょう！

1. 有効茎数の確保

- 目標茎数：360～400本/㎡を確保したら、中干しを行います（「ひとめぼれ」：410～460本/㎡）

- * 「だて正夢」は穂重型の品種（茎数が増えにくく、一穂粒数が多い）であるため、「ひとめぼれ」より目標茎数が少なくなります。

＜生育ステージと生育量の目安＞

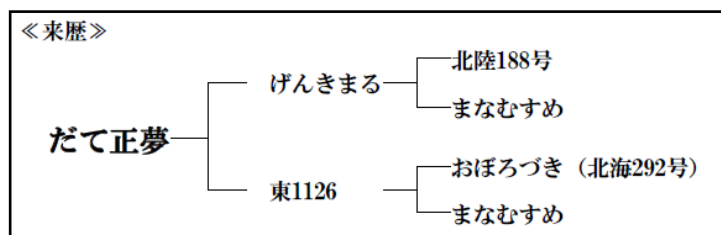
	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
	7月15日頃	7月25日頃	8月10日頃
草丈(cm)	59～63	—	—
茎数・穂数(本/㎡)	440～480	410～450	360～400
葉色(SPAD値)	39～43	35～39	35～39
主茎葉数(葉)	10.0～10.8	11.3～12.0	12.5～13.0

2. 追肥

- 追肥：減数分裂期に N2kg/10a を基本とします。
- * 幼穂形成期の茎数が440本/㎡を下回る場合は、茎数確保のため、幼穂形成期と減数分裂期の2回に分けて追肥します。（N1kg/10a ずつ）
- * 「だて正夢」は「ひとめぼれ」よりも葉色が濃くなる傾向のため、追肥の判断をする際には注意しましょう。

第1回 『だて正夢』を知ろう！

- 平成30年に本格デビューした『だて正夢』は、今年度県内で生産者654名、作付面積約600haとなり、昨年度の倍に広がっています。
- 『だて正夢』は古川農業試験場で育成され、平成28年3月に宮城県水稻奨励品種に指定されました。
- 『だて正夢』は、アミロース含量が12%程度（「ひとめぼれ」は16%前後）で、“もちり”した粘りの強さと、冷めても美味しく頂けることが特長です。栽培面では、冷害や倒伏に強い品種です。
- 『ひとめぼれ』、『ササニシキ』に加え、『金のいぶき』とともに、宮城県の新たな主力品種として、県内はもちろん首都圏でも販売PRを行い、消費者の皆様から好評を頂いています。
- 普及センターでは稲作情報や栽培塾を通じて、情報提供を行いながら、今後期待される『だて正夢』を盛り上げていきます。



だて正夢

農薬危害防止運動実施中（令和元年6月1日～8月31日）

『使用前には必ずラベルで 作物名・使用方法を確認！！』